

発 刊 に 寄 せ て

わが国の農業技術の発展は、戦前においてはその多くが品種改良、肥料の増投技術にみられるように、もっぱら土地生産性の向上に集約され、いわゆる多肥多労農業を特色としてきたが、戦後は農業をとりまく社会経済条件も戦前のそれとは様相を異にし、農業技術の発展にも大きな変革がもたらされた。

ことに戦後高度成長を遂げた他産業と農業との生産性および所得の格差是正を図るため、農業部門における労働生産性の向上が急務となり、労働投下量の大きな稲作の耕耘、除草作業を中心に新技術の開発普及の育成強化が図られてきた。

除草剤による除草作業の合理化は、昭和24年に水田雑草の選択的防除法が確立したのを契機としてその後相次いで優れた除草剤の開発普及により急速にすすめられ、水稻の直播栽培など波及的に農業技術全体に画期的な技術革新をもたらした。

除草剤による雑草防除技術の確立によって、水田、畑、果樹園、林野等における炎天下の激しい除草労働が軽減され、同時に雑草による養分収奪の障害、病虫害繁殖の好適環境が排除さ

農林省農政局長 森 本 修

れるなど除草剤の使用が農業生産性を向上させた功績は測り知れないものがある。

また、生育調節剤は、作物の生育を人為的に調節することにより、農産物の生産量および商品性を高めるなど新しい技術分野として期待が寄せられている。

今日おかれているわが国の農業は、若年層を中心とした農業労働の減少、急速な兼業化の進行、農業労働力の質的な劣弱化など農業生産をめぐっていろいろ困難な条件のもとにあるが、これらの諸情勢に対処しながら農業生産を一層向上させるためには、さらに優れた新技術の開発普及が必要となってくる。

最近における除草剤および生育調節剤の発展はめざましいものがあり、なお多くの改良すべき点や未開発分野が残されているので、今後一層の御努力が望まれる。

このときにあたり、機関誌「植調」を発刊されることは、誠に時宜を得たものであり、本誌を通じて関係者各位ははじめ広く一般の除草剤および生育調節剤についての認識と理解を深められ、農業生産の安定と農業経営の合理化に貢献されんことを期待する。

発 刊 に 寄 せ て

農林省農林水産技術会議事務局長 近 藤 武 夫

財団法人日本植物調節剤研究協会が、昭和39年に関係官民の総意によって設立されて以

来、ここに4年目を迎えるが、今日立派な成長を遂げつつあることは、大変喜ばしい。